

白山の外来植物



2013年3月

石川県白山自然保護センター

はじめに

「あなたたちは、オオバコに勝てますか？」白山の外来植物であるオオバコの除去作業を行っているボランティアの方が、通りがかった登山者に投げかけられた言葉です。

白山は、花の百名山にも数えられています。約 250 種類の高山植物が生育し、そのうちの 100 種類もの高山植物が白山を日本における分布の西限としています。白山には、年間約 5 万人もの登山者が訪れますが、多くの方が高山植物を目当てにしていることでしょう。

その白山の高山植物を脅かしているものの一つが外来植物です。もし、白山の高山植物が、外来植物によってその生育地を奪われたら…。もし、高山植物と外来植物が交雑し、もともと自然にはなかった交雑種が出現してしまったら…。そして、その外来植物の分布域を広めているのが、私たち自身だったとしたら…。私たちは、どうやって白山の自然と関わっていけばよいのでしょうか。

本誌では、白山の外来植物の状況とその対策について、紹介します。白山という大自然に、人が足を踏み入れることによる影響を最小限にし、そのままの形で残しておくためにはどうしたらよいのか、そのために外来植物とどのように向き合っていけばよいのか、一歩立ち止まって、考えていただければ幸いです。

表紙 南竜ヶ馬場における外来植物除去作業の様子

多くのボランティアの方々に参加していただき 南竜ヶ馬場のオオバコを除去していただいています。

裏表紙 外来植物除去作業のキャラクター「オオバコマン」(右)

白山の代表的な高山植物ハクサンコザクラのキャラクター「コザクラちゃん」(左)

も く じ

白山の外来植物とは	2
白山に生育している外来植物	3
白山の外来植物、どこに生育しているの？	5
オオバコ	6
フキ	7
スズメノカタビラ	8
シロツメクサ	9
どのように運ばれてきたの？	10
なぜ、外来植物を除去しないといけないの？	10
白山の外来植物対策	12
ボランティアによる外来植物除去作業	12
山頂付近での除去作業	12
市ノ瀬での除去作業	14
登山道での除去作業	14
駐車場の舗装	15
種子除去マット及びブラシの設置	16
白山スーパー林道での外来植物除去	18
白山公園線でのセイタカアワダチソウの除去	20
おわりに	21

コラム

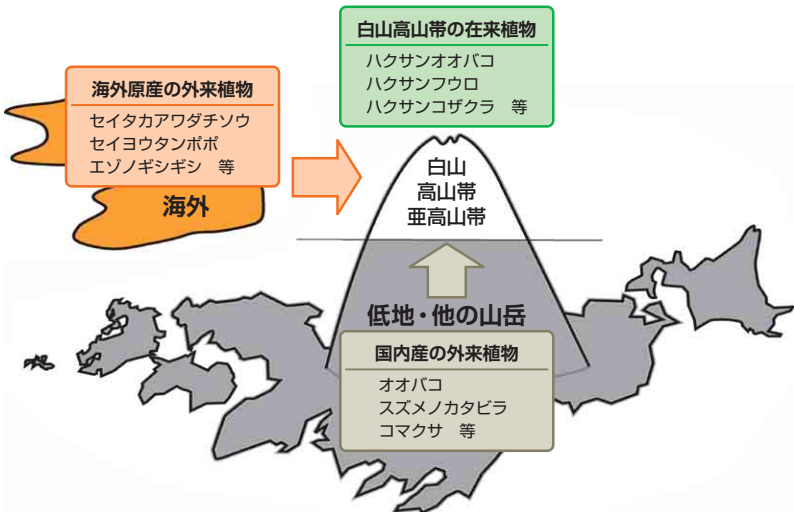
高山植物の女王 コマクサも白山では外来植物	4
生態系維持回復事業	15
環白山保護利用管理協会	16
特定外来生物とは	19

白山の外来植物とは

一般的に「外来植物」と聞くと、普通は「外国から持ち込まれた植物」を想像するかと思います。しかし、ここでは、本来の生育地の“外から来たもの”と定義し、「白山の外来植物」とは、もともと白山の亜高山帯や高山帯に生育していなかった植物で、海外原産の植物をはじめ、日本国内産の植物であっても、オオバコやスズメノカタビラのような低地の植物や他の山岳の高山植物で人為的に持ち込まれた植物を指します。

白山の外来植物

<p>海外原産の外来植物</p>	<p>日本には生育していなかった植物。園芸や飼料用に意図的に持ち込まれたもののほか、貨物等に混入して非意図的に持ち込まれたものがある。</p> <p>例) シロツメクサ、外来タンポポ類</p>
<p>国内産の外来植物 国内の他地域から持ち込まれた植物</p>	<p>白山の亜高山帯や高山帯には生育していなかった植物で、低地の植物のほか、他の山岳から持ち込まれた高山植物も含む。</p> <p>例) オオバコ、スズメノカタビラ、コマクサ</p>



白山に生育している外来植物

これまでの調査で、白山の亜高山・高山帯（標高 2,000 m 以上）には、下の表の 15 種類のほか他の山岳から持ち込まれたとされている高山植物のコマクサを含め、全部で 16 種類の外来植物が確認されています。

白山の外来植物がいつ頃から生育しているかの詳しい記録はありませんが、昭和 50～51 年の植物調査で、オオバコやフキが標高約 2,100 m の南竜ヶ馬場で生育していたという記録があります。その後、平成 17～20 年に詳しい外来植物調査が行われ、多くの外来植物の生育が確認されました。平成 21～24 年の調査では、生育している標高が上昇したり、ミミナグサやクサイのように新たに生育が確認された種もあります。なお、スズメノカタビラは平成 22 年に白山山頂の神社の奥宮祈祷殿の建物の際で見つかりましたが、すぐ除去したので、現在、標高 2,700 m 付近には分布していません（現在の最高標高は標高 2,450 m の室堂）。

白山の亜高山・高山帯（標高 2,000m 以上）の低地から持ち込まれた外来植物

種名	調査年			
	昭和 50～51 年	平成 5～6 年	平成 17～20 年	平成 21～24 年
スズメノカタビラ	－	2,450m	2,450m	(2,700m)
アカミタンポポ	－	－	2,450m	2,450m
オオバコ	2,100m	2,100m	2,450m	2,450m
フキ	2,100m	2,100m	2,450m	2,450m
シロツメクサ	－	2,100m	2,450m	2,450m
セイヨウタンポポ	－	－	2,100m	2,450m
オノエヤナギ	－	－	2,100m	2,450m
エゾノギシギシ	－	1,970m	2,100m	2,280m
オオアワガエリ	－	2,100m	2,100m	2,100m
スギナ	－	－	2,100m	2,100m
ムラサキツメクサ	－	－	2,100m	2,100m
ノコンギク*	－	－	2,100m	2,100m
カモガヤ	－	－	2,100m	2,100m
ミミナグサ	－	－	－	2,100m
クサイ	－	－	－	2,100m

数字は分布最高地点のおよその標高。－：標高約 2,000 m 以上には分布なし。太字は高山帯
中山祐一郎（大阪府立大）、柳生敦志（白山雑草研究会）との調査結果（平成 17 年～平成 24 年）及び環
境省調査結果（平成 23 年）などを取りまとめた。

※ノコンギクについては、南竜ヶ馬場付近までは、もともと生育していた可能性もあり、専門家の間でも厳密には外
来植物かどうかはっきりとした結論は出ていない。



白山の外来植物

オオバコ	フキ	
シロツメクサ	スズメノカタビラ	オオアワガエリ
セイヨウタンポポ	アカミタンポポ	

高山植物の女王 コマクサも白山では外来植物

コマクサは、東シベリア、カムチャッカ、千島列島などに分布し、日本では北海道（知床半島、大雪山系など）、本州（岩手山、秋田駒ヶ岳、蔵王山、ハケ岳、北アルプスなど）に分布。白山では昭和48年ごろに山岳愛好家グループが植栽したものが繁殖、増殖したとされている。



白山の外来植物、どこに生育しているの？

白山の外来植物は、登山道周辺のほか避難小屋やキャンプ地周辺など人為的に改変された場所で多く見られました。登山道周辺では特に階段や道標の周辺ほか、全体的に登山者によってあまり踏まれない登山道脇や小屋の際などで多いようでした。



階段や道標周りには多い



登山道脇は踏まれにくい

植物の種類によって分布パターンは異なります。オオバコやフキなどは白山の登山道一帯に広がっており、登山者の少ない北部登山道でも多く見られます。(P6、P7)。それに対し、その他多くの外来植物は南竜ヶ馬場など限られた地点でのみ確認されています。例えば、シロツメクサは、南竜ヶ馬場のほか、登山口や工事用道路の交差点、ゴマ平避難小屋跡地などでしか確認されていません (P9)。

白山の外来植物の分布

広域分布		オオバコ、フキ、スズメノカタビラ、 ノコンギク (ブナ帯では普通)
局所分布	数か所	シロツメクサ (登山口、南竜ヶ馬場、ゴマ平避難小屋跡地など)、 セイヨウタンポポ (南竜ヶ馬場、室堂)、 ムラサキツメクサ (中飯場、旧甚ノ助避難小屋付近など) エゾノギシギシ (南竜ヶ馬場、延命水付近など)、 オノエヤナギ (南竜ヶ馬場、室堂など)
	1か所のみ	アカミタンポポ (室堂)、 クサイ (南竜ヶ馬場)、オオアワガエリ (南竜ヶ馬場)、 カモガヤ (南竜ヶ馬場)、スギナ (南竜ヶ馬場)

オオバコ（オオバコ科） *Plantago asiatica* L.

【分 布】日本各地・千島・樺太・朝鮮・中国（本土・台湾）

【花の時期】4～9月

日本を含め、東アジア各地の低地から高地まで、人が踏みつけるような道ばたや空き地などに普通に生える多年草です。漢字では、「大葉子」と書き、幅の広い葉にちなんで名付けられました。高さ10～20cmの花茎の先端に白い小さな花を多数、穂状につけ、雌しべが熟したあとに雄しべが出てきます。種子はセキ止めの薬になります（車前子（しゃぜんし））。

花茎と花茎をひっかけて引っ張り合う草相撲に使われています。



オオバコ



草相撲の様子

白山におけるオオバコの分布

環境省の平成22年の調査結果をもとに作図。地図中の色がついている範囲は、標高2,100m以上の範囲。

国土地理院発行5万分の1地形図「白峰」「白川村」「越前勝山」「白山」を使用（P7～9の図も同様）

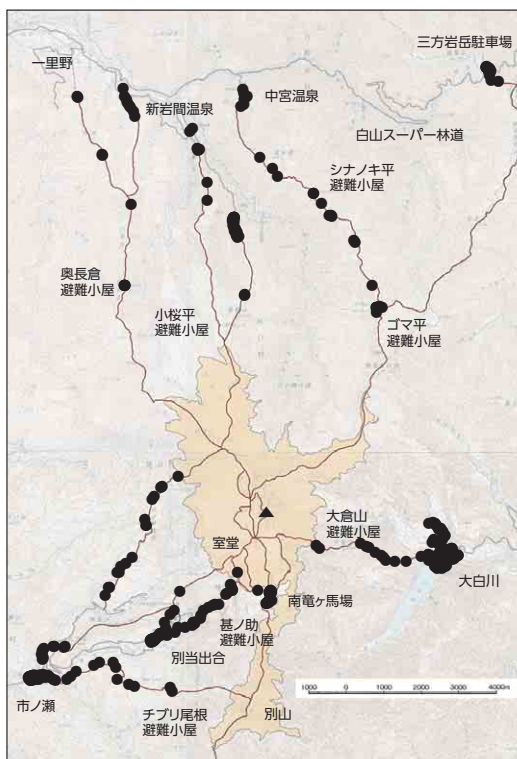
フキ (キク科) *Petasites japonicus* (Sieb. et Zucc.) Maxim.

【分 布】本州・四国・九州～沖縄、朝鮮・中国

【花の時期】3～5月

山地の崩壊地や沢沿いの林、田の畦などに生えます。地下茎をのばして繁殖。雌雄異株。雄花は花粉をつけるため、やや黄色っぽい、雌花は白色。雌株は花の後、花茎が45cm ぐらいまで伸びます。葉は花の後に出て、葉柄は長さ60cm ぐらい、その先に腎円形の幅15～30cm の大きな葉をつけます。

早春、地面から顔を出すフキノトウは、フキの若い花茎で、このフキノトウや葉柄の部分を食べます。南竜ヶ馬場では、食用に植えられたとも。



フキ



フキノトウ

白山におけるフキの分布

環境省の平成22年の調査結果をもとに作図。地図中の色がついている範囲は、標高2,100m以上の範囲。

シロツメクサ (マメ科) *Trifolium repens* L.

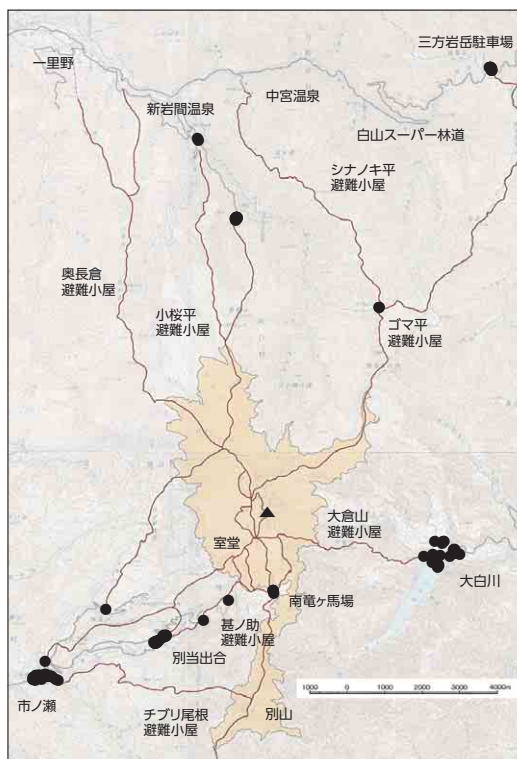
【分 布】日本全土 原産地：ヨーロッパ

【花の時期】5～10月

ヨーロッパ原産で、江戸時代に日本に渡来。

花は白色で、40～50の小さな花が密集してほぼ球形に集まっています。

昔、ヨーロッパからガラスを輸入する際、箱の隙間にこれの枯草をつめ、運んだことから「詰め草」と呼ぶようになりました。しかし、現在、全国的に広がっているものは、江戸時代に渡来したものと別々に牧草用として輸入されたものが広がったと思われます。



シロツメクサ



ムラサキツメクサ

シロツメクサに近縁なムラサキツメクサは、登山口ほか甚之助避難小屋、中飯場に分布

白山におけるシロツメクサの分布

環境省の平成22年の調査結果をもとに作図。地図中の色がついている範囲は、標高2,100m以上の範囲。

どのように運ばれてきたの？

多くの場合、外来植物は種子の状態を持ち込まれてきます。オオバコの種子は、乾いている時には、さらさらな状態ですが、地面へ落ちて水気を帯びると粘液を出してべたつき、靴や自動車のタイヤなどにくっついて運ばれます。他の外来植物の種子も同じように人の靴や衣服、ザックなどに付着して運ばれたと考えられます。そのほか、山小屋や登山道建設の際に、建築資材や荷物をくるむための“モッコ”や資材そのものに種子が付着することで運ばれたと考えられています。



粘液を出したオオバコの種子



ヘリコプターによる山小屋の建築資材の搬入



室堂で見つかったフキ。土嚢袋に入れられた砂から芽を出していた

なぜ、外来植物を除去しないといけないの？

外来植物が繁茂すると、どのような問題があるでしょうか？まず、景観の悪化があげられます。たとえば南竜キャンプ場のテントサイトに広がる緑の半分以上は外来植物のオオバコです。また、南竜ケビンの前も一面、オオバコが広がっています。苦労して登山して迎えてくれるのが低地のオオバコというのは少し悲しい気がします。



オオバコが生育する南竜キャンプ場のテントサイト



南竜ケビンの玄関前のオオバコ

次に、外来植物の種類によっては在来の植物の生育を阻害してしまうこともあります。

さらに、これが一番重要な問題なのですが、近縁な高山植物と交雑し、雑種を作ってしまう可能性があり、実際、南竜ケ馬場では外来植物のオオバコと高山植物のハクサンオオバコの雑種が出来ていることがDNA分析によって明らかにされています。外来植物の除去は、白山の景観と生態系を守るために必要なことなのです。



雑種と思われる個体



南竜野営場におけるオオバコとハクサンオオバコの分布

黒い点がオオバコが確認された位置。オレンジの枠はハクサンオオバコの生育している範囲。両方の種類が重なっている所があることがわかる。

白山の外来植物対策

尾瀬や立山などでは、昭和50年代頃から、すでにオオバコなど外来植物の除去が行われていましたが、白山での外来植物対策が始められたのは、平成13年度からです。

平成13年度から15年度に石川県が実施した「白山高山帯保全対策調査・検討会」において、白山全域でのオオバコやスズメノカタビラなどの外来植物の分布調査を行い、検討会で白山の外来植物は除去するという対策方針が決められました。その方針

をもとに、翌平成16年度から「白山外来植物対策事業」でボランティアによる外来植物の除去作業を開始しました。平成19年からは、環白山保護利用管理協会と一緒に除去作業を開催しています。

一方、平成18年度から環境省でも白山国立公園外来種対策事業が開始され、種子除去マットの効果試験と設置、白山スーパー林道における外来植物の除去作業が始められました。平成23年度からは「白山国立公園白山生態系維持回復事業」として外来植物対策事業が行われています。



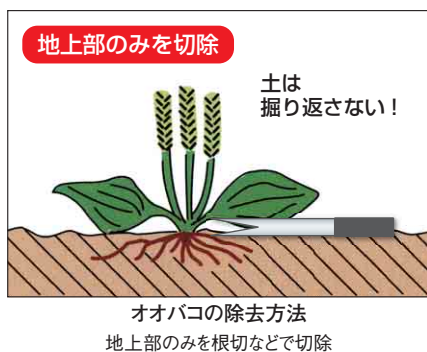
尾瀬 外来植物の侵入を防ぐためのマット

ボランティアによる外来植物除去作業

山頂付近での除去作業

平成16年度に試行的に除去作業を行い、翌平成17年度から、ボランティアを一般募集し、本格的に外来植物除去作業を開始しました。主な対象地域は室堂と南竜ヶ馬場周辺で、室堂ではスズメノカタビラを中心に、南竜ヶ馬場周辺では特にオオバコに重点を置き、除去作業を実施してきました。

オオバコとズメノカタビラの除去は、土壌保全のため地上部のみをカマ等で切り取って除去することになっています。根まで掘り返してしまうと、掘り返したと



ころの土が雨水などで流れ出してしまうので、それを防ぐためです。多年草のオオバコの場合、芽を出す生長点と呼ばれる部分は、地表面のすぐ下にあるので、その部位を切除すれば翌年芽を出すことはありません。また、スズメノカタビラは芽を出したその年（秋に芽を出した場合は翌年に）に花を咲かせ、実を着け、枯れてしまう1年草（越年草）なので、地上部を切り取ってしまえば、翌年芽を出すことはありません。

除去作業時にはゼッケンをして、許可を受けて作業を実施していることが他の登山者にもわかるようにしています（表紙写真）。毎回のことですが、ボランティアの方々とはとても熱心に対象の植物を刈り取っていき、あつという間に除去した植物を入れるゴミ袋がいっぱいになっていきます。そして除去した植物が入ったゴミ袋は、その場に放置することなく登山口の別当出合まで運んでもらい、その後、白山自然保護センターで重量を量るなどした後、処分しています。

〔 期 間 〕 平成 16 年～平成 24 年

〔 回 数 〕 15 回（室堂 8 回、南竜ヶ馬場 7 回）

〔 参加者 〕 のべ 634 名

〔 これまで除去した外来植物の量 〕

オオバコ	1.0kg	（室堂）、	549.1kg	（南竜ヶ馬場）
スズメノカタビラ	92.3kg	（室堂）、	0.6kg	（南竜ヶ馬場）
フキ	0.1kg	ほか重量未計測の 1 個体（室堂）		
シロツメクサ	0.9kg	（室堂）、	1.5kg	（南竜ヶ馬場）
アカミタンポポ	7.3kg	（室堂）		



オオバコの除去



スズメノカタビラの除去

市ノ瀬での除去作業

市ノ瀬は、白山登山の基地となっていることから、登山前にオオバコの種子を着けて登山しないよう、平成20年度から市ノ瀬駐車場のオオバコの除去作業を実施しています。また、外来植物除去作業で除去したオオバコの葉を使ってオオバコ茶を作り、それを参加者の方に試飲していただいています。

〔 期 間 〕 平成20年～平成24年

〔 回 数 〕 5回

〔 参加者 〕 のべ382名

〔 これまで除去したオオバコの量 〕 375.4kg



市ノ瀬での除去作業の様子



オオバコ茶の試飲

登山道での除去作業

各登山道におけるオオバコについても種子を着けさせず、今以上に分布を拡大させないようにするため平成19年度から除去作業を実施しています。ただし、斜面でオオバコの根が土砂の流出を食い止めている可能性があることから、尾瀬の至仏山での除去方法と同じようにオオバコの花茎のみを切除しています。作業は事前に講習を受けた登録ボランティアが実施しています。



登山道沿いのオオバコの花茎を切除

これらのほか、環白山保護利用管理協会が中心となり地域と連携しながら、福井県勝山市小原地区、岐阜県郡上市石徹白地区、白川村大白川地区などでも除去作業が実施されています。また、最近では、企業等の社会貢献活動として外来植物除去作業が実施されるようになってきています。

駐車場の舗装

白山の登山口である別当出合は、山頂までの最短ルートとなる砂防新道や観光新道の基点になっています。登山ピーク時にはマイカーは規制され、入ることはできませんが、それ以外の時期には別当出合の駐車場まで車を乗り入れることができます。かつて、別当出合駐車場は舗装されておらず、土がむき出しの状態で、たくさんのオオバコが生育していました。登山者は駐車場でオオバコの種子を着けて登山していた可能性があります。そこでその対策のために、平成22年に環境省によって駐車場のアスファルト舗装がなされました。



舗装前の別当出合駐車場



舗装後の別当出合駐車場

生態系維持回復事業

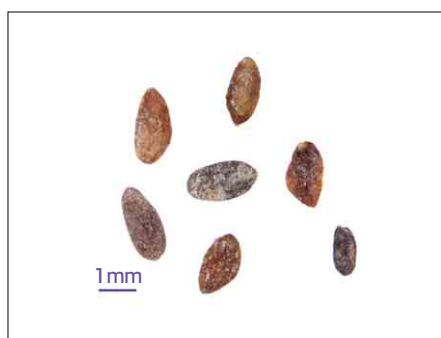
環境省では、他地域から人為的に持ち込まれた植物による在来植物の生育への影響、シカによる高山植物への食害など、既存の管理手法では生態系の維持が困難な事例が見られることから、平成22年4月1日に自然公園法を改正し、「生態系維持回復事業」制度を新たに設置し、対応を行っている。

白山国立公園では平成23年から農林水産省・国土交通省・環境省が白山国立公園白山生態系維持回復事業計画を策定し、外来植物への対策を実施している。また、石川県および環白山保護利用管理協会は全国で初めて同事業を実施する団体として確認・認定を受け、環境省らと協力して白山国立公園において白山生態系維持回復事業を行っている。

〔シカの防除等を実施〕 知床、尾瀬、南アルプス、霧島錦江湾、屋久島
〔外来植物の防除等を実施〕 白山

種子除去マット及びブラシの設置

国立公園の外来植物問題に対して、尾瀬をはじめとして全国的に「種子除去マット」が設置されました。国立公園内に持ち込まれる外来植物の種子を登山口等で少しでも落としてもらおうというわけです。白山でも平成19年度に環境省が市ノ瀬、別当出合、南竜ヶ馬場の3か所に種子除去マットを設置し、効果を検証しました。その結果、マットにたまった土砂の中身を調べたところ下の写真のようにオオバコやスズメノカタビラなど白山でみられる外来植物の種子が多数含まれていることがわかりました。



オオバコの種子



スズメノカタビラの種子

種子除去マットでの効果が検証されたので、環境省はマットの設置場所を徐々に増やしていきました。平成20年度には設置場所を5か所に、平成22年度に8か所、平成23年度に12か所、平成24年度に13か所に増やしました。そのほか、白山スーパー林道管理事務所によって、白山スーパー林道のふくべ谷園地にもマットが設置されました。また、平成24年度には、登山靴についた土を払うための「種子除去ブラシ」も3か所に設置しました。

環白山保護利用管理協会

環白山保護利用管理協会（会長：深田森太郎）は、石川県だけではなく、白山国立公園と周辺地域の4県6市1村の人々が、地域や立場を越えて連携し、協働する新しい組織体で、平成19年1月28日に設立された。国や県、市村だけではなく、民間の会社などの団体が組織に加わっており、自然、景観、文化を保全するとともに、持続可能な地域振興を実現し、美しい白山と元気な白山麓地域を守り育て、後世に受け継いでいこうと活動を行っている。

平成 25 年には、別当出合休憩舎の整備に伴い、登山者の皆さんに利用していただく外来植物の種子除去のための場所が新たに設けられます。「Stop! 外来植物」を意識し、利用をお願いします。



市ノ瀬ビジターセンター前に設置した種子除去マット



中飯場作業道に設置した種子除去ブラシ



南竜ヶ馬場に設置した種子除去マット

- 平成19年 マット設置
- 平成20年 マット設置
- 平成22年 マット設置
- 平成23年 マット設置
- 平成24年 マット設置
- 平成24年 マット設置 (スーパー林道)
- ▲平成24年 ブラシ設置

種子除去マットと種子除去ブラシの設置場所

白山スーパー林道での外来植物除去

白山スーパー林道は石川県白山市尾添と岐阜県白川村を結ぶ全長 33.3km の山岳道路です。道路の開通により、多数の外来植物が分布するようになりましたが、調査の結果、「特定外来生物」であるオオハンゴンソウが分布していることが明らかになりました。

また、白山スーパー林道沿いには、イワギクが生育していますが、そのイワギクに近縁な外来植物のフランスギクも分布が確認されました。イワギクは、いしかわレッドデータブック〈植物編〉2010 で準絶滅危惧、環境省のレッドリストでは絶滅危惧 II 類に指定されている絶滅が心配される種類です。

そこで石川県では、環白山保護利用管理協会や環境省、岐阜県、白山市、白川村、白山スーパー林道管理事務所らと協力し、オオハンゴンソウとフランスギクの対策を進めています。具体的にはオオハンゴンソウは抜き取り、フランスギクは花茎を切除しています。これまでにオオハンゴンソウは 115.4kg 除去しましたが、年々除去量が減ってきています。また、フランスギクの花茎は約 2,900 本切除しました。フランスギクで花茎の切除を行っているのは、この種は抜き取りで地中に根が残ってしまうと、残された所から再生する性質があり、逆に個体が増えてしまう可能



絶滅が心配されるイワギク



オオハンゴンソウ



抜き取りによるオオハンゴンソウ除去

性があるためです。しかし、花茎の除去では、分布拡大は防げますが、完全に植物をなくすことはできません。そこで平成24年から試験的に防草シートを設置し、経過を観察しています。



フランスギク



防草シートによる対策の様子

特定外来生物とは

「特定外来生物」は、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（外来生物法）において、海外から持ち込まれた外来生物のうち、人の生命・身体や生態系、農林水産業などに被害を与える侵略的な外来生物を指定したもので、飼うことや栽培、運搬、輸入することなどを厳しく規制している。これまでアライグマ、オオクチバス（ブラックバス）、オオハongoソウ、オオキンケイギクなど105種類が指定されている（平成25年3月時点）。また、「要注意外来生物種」は、「特定外来生物」のように栽培等が規制されるわけではないが、被害を及ぼすことがはっきりしており、引き続き特定外来生物等へ指定するかどうかについて検討することになっているものや緑化に用いられているものなどで、セイタカアワダチソウのほか、アカミミガメやアメリカザリガニ、外来タンポポ（セイヨウタンポポ、アカミタンポポ）など148種類が指定されている（平成25年3月時点）

環境省では、外来生物問題を引き起こさないために、とるべき姿勢を表したスローガンとして、「外来生物被害予防三原則」を作成している。

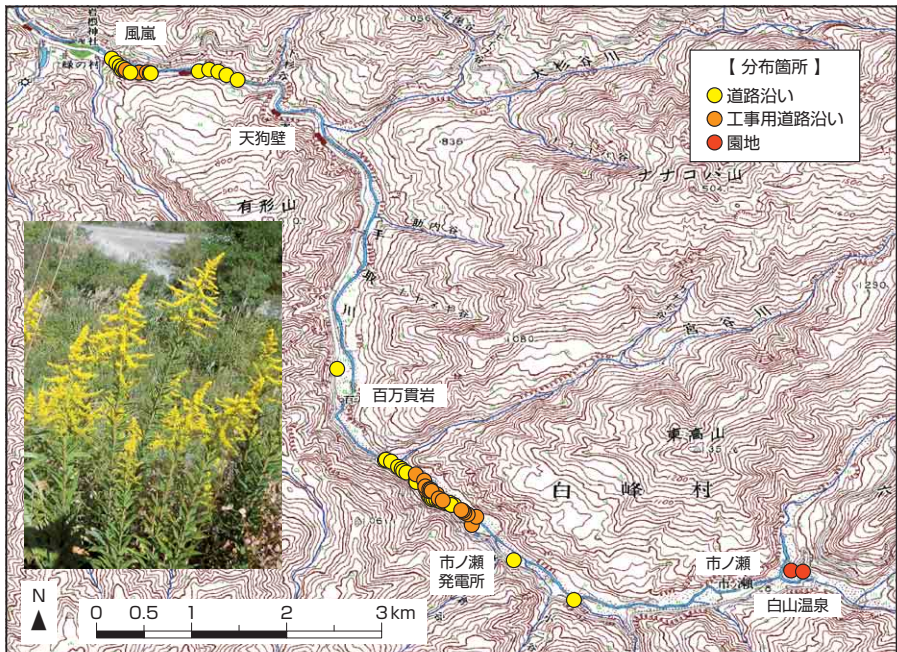
【 外来生物被害予防三原則 ～侵略的外来生物による被害を予防するために 】

1. **入れない** 悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに日本に**入れない**
2. **捨てない** 飼っている外来生物を野外に**捨てない**
3. **拡げない** 野外にすでにいる外来生物は他地域に**拡げない**

白山公園線でのセイタカアワダチソウの除去

セイタカアワダチソウ(背高泡立草)は、その名のとおり高さが2～3mにもなり、黄色の目立つ花を咲かせる北アメリカ原産の外来植物です。非常に繁殖力が強く、種子だけでなく地下茎でも繁殖し、ススキなどの先住者を駆逐し、セイタカアワダチソウだけしか生えていないような群落を作ります。その侵略的な生態的特性から外来生物法では、「要注意外来生物」として指定されています。

平成24年10月、白山公園線の白山国立公園入口の風嵐から市ノ瀬までの間のセイタカアワダチソウの分布状況調査と除去作業を行いました。その結果、セイタカアワダチソウは69地点で分布が確認され、開花茎数2,270本、非開花茎2,216本の計4,486本、201.3kgを除去しました。今後も侵入が確認され次第直ちに除去作業を行っていくことが必要です。



白山公園線で確認されたセイタカアワダチソウの分布

一様に分布しているわけではなく、集中的に分布している所があることがわかる。数値地図 25,000 (地図画像) KANAZAWA のデータを加工し、背景の地図に使用

おわりに

白山の外来植物対策は、多くの方々の協力によって実施されています。環境省をはじめ県や市町村、山小屋を管理している（財）白山観光協会や（財）白山市地域振興公社、石川県自然解説員研究会、白山雑草研究会の方々。そしてオオバコの会をはじめ、外来植物除去作業に参加していただいているたくさんのボランティアの方々。白山の外来植物対策のため、これからも白山にかかわる人の輪を広げていきたいと思ひます。

オオバコ、スズメノカタビラ…白山にとっては、生態系を脅かす招かざる客かもしれません。しかし、それらの植物たちは、自分たちの繁殖のために分布を広げてきただけのことです。そのきっかけを作ったのは、私たち人間であることを忘れてはいけません。「オオバコに勝てますか？」太古の昔から成り立ってきた自然に対して、人間が対抗しようとする事自体、無謀なことなのかもしれません。白山の自然を守るために、私たちができることはなんなのか？人と自然の関わりについて、皆で心に留めながら考えなければならない課題です。裏表紙のオオバコマンとコザクラちゃん。ふたり!?は、白山で出会いました。人気者のコザクラちゃん、それに対して、厄介者扱いされているオオバコマン。そっと耳を澄ますと「オオバコマンは悪くないだよ」「ありがとうコザクラちゃんがそう思ってくれてうれしいよ」というふたりの会話が聞こえてくるかもしれません。

写真提供：大阪府立大 中山祐一郎（P4 オオアワガエリ、P8 スズメノカタビラの花）・石川県地域植物研究会（P9 ムラサキツメクサ）・環境省（P15 舗装前の別当出合駐車場、舗装後の別当出合駐車場、P16 オオバコの種子、スズメノカタビラの種子）・環白山保護利用管理協会（P19 防草シートによる対策の様子）

イラスト：「オオバコマン」環白山保護利用管理協会 稲葉弘之
「コザクラちゃん」白山里 藤川恭子

白山の自然誌 33
白山の外来植物

発行日 平成25年3月29日
文・構成 野上 達也・吉本 敦子
発行 石川県白山自然保護センター
〒920-2326 石川県白山市木滑ヌ4
Tel. 076-255-5321 Fax. 076-255-5323
<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/hakusan/index.htm>
E-mail : hakusan@pref.ishikawa.lg.jp
印刷 株式会社 中川印刷

